

Monthly

Yamagata West Rotary Club 2025-2026
国際ロータリー第2800地区 山形西ロータリークラブ



REPORT

12

December 2025

よいことのために
手を取りあおう



ロータリー月間テーマ
疾病予防と治療月間

第3069回例会
「年次総会」

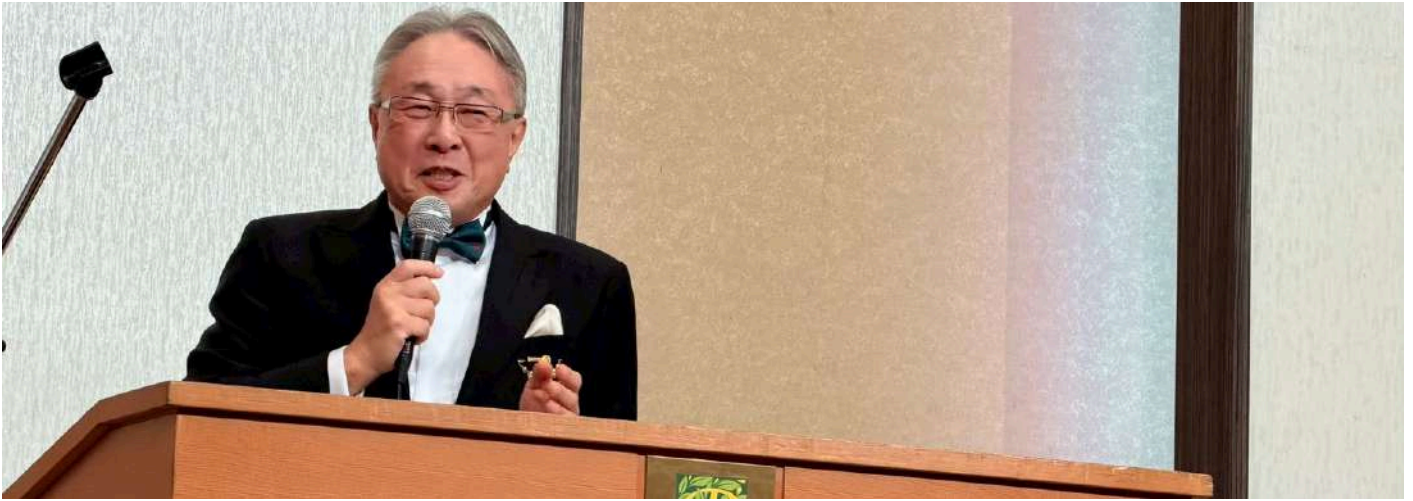
第3070回例会
「通常例会」

第3071回例会
「山形美術館絵画鑑賞例会」

第3072回例会
「クリスマス家族例会」

第3073回例会
「通常例会」

12月を振り返って



五十嵐信会長

12月は例会が5回。月曜がすべて例会日となり、なかなか濃密なひと月でした。第一例会は総会。次年度体制が承認され、来年への準備が本格的に始まりました。来年は3-year targetの2年目。土台は整いつつありますので、より高いレベルからのスタートが可能になると期待しています。第二例会は、フォーブスジャパン谷本編集長によるリモート卓話。ロータリーの持つリベラルで長期的な視座と、経済を俯瞰する編集の視点がどこか重なり、「ロータリーの目で社会を読む」という体験ができたように感じました。第三例会は、山形美術館への“大人の遠足”。吉野石膏コレクションを見送りながら、文化とは何かを改めて考えました。上野には国立西洋美術館があり、今や美術館巡りのハードルは決して高くありません。それでも、身近にあった名品がこの地を離れる寂しさは、また別の感情です。第四例会はクリスマス家族会。私にとって、特別な行事です。幼少期、日本はまだ豊かとは言えませんでした。それでもロータリーの家族会は、年に一度の“ハレの日”でした。

大沼デパート地下の映画館での開催。子どもたちは半ズボンにブレザー、蝶ネクタイ。今もその光景が目に残ります。久しぶりにタキシードを着ながら、ハレとケの区別を持つことの大切さを、しみじみと感じました。第五例会は、鈴木製粉・鈴木社長の卓話と年越しそば。この例会は、実は幹事による一つの“実験”の場でもありました。詳細は幹事からの報告をお待ちください。こうして慌ただしくも充実した半年が終わりました。来年は、少しだけ余白を持ちつつ、しかし歩みは止めずに進んでいきたいと思えます。

- ・ 第3069回例会 会長挨拶
- ・ 第3070回例会 会長挨拶
- ・ 第3071回例会 会長挨拶
- ・ 第3072回例会 会長挨拶
- ・ 第3073回例会 会長挨拶

幹事報告



武田秀和幹事

ロータリーレート：12月は156円。

例会案内：

12月8日：例会場にてリモート接続によるゲスト卓話例会。リモート参加希望者は幹事まで連絡。

12月16日（火）：山形美術館にて変更例会。

12月22日：パレスグランデールにてクリスマス家族例会。

12月29日：年内最終例会。

事務局年末年始休業：12月27日～1月8日（または1月4日）。

緊急連絡は幹事まで。事務局LINEも活用可。



委員会報告

ロータリー財団委員会 菅原委員長



- ポリオプラスソサイティへの寄付を呼びかけ。
- 11月のロータリー月間中に多数の寄付をいただいたことへの感謝。
- ポリオ撲滅に向けてロータリー財団はビル・ゲイツ財団と連携し、これまでに20億ドル以上（約3,000億円）を投じている。引き続き協力をお願いしたい。

親睦家族委員会 武田委員長



- クリスマス家族例会（12月22日）への多数参加・協賛に感謝。
- ビンゴ大会の景品提供について、理事者・会員に無償提供を依頼。武田元裕SAA、遠藤正明副会長より寄付をご提供いただいた。
- 「熊もついてくるから却下」というユーモアを交えながら、リスクのない商品の提供を引き続き呼びかけ。
- 年明け最初の例会（1月19日）は新年会。多数の参加を呼びかけ。

広報雑誌委員会 角田副委員長



- 月刊誌「ロータリーの友」12月号に、戸田正宏会員の俳句が掲載。テレビでも著名な俳人・夏井いつき氏に選出された。詳細は戸田氏本人へ。

講師卓話



「インクルーシブキャピタリズムとルーツの未来」 フォーブスジャパン執行役員ウェブ編集長・谷本有香氏（リモート登壇）

12月8日の例会では、フォーブスジャパン執行役員ウェブ編集長の谷本有香氏をリモートでお迎えし、ご卓話をいただきました。谷本氏は山一証券、ブルームバーグTV、日経CNBCを経て現職に就かれ、これまで世界4,000名以上のVIPにインタビューしてきた経済ジャーナリズムの第一人者です。また、EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの日本代表選考審査員を10年以上務めるほか、山形大学・東北公益文科大学でのアントレプレナーシップ教育にも長年携わるなど、山形とも深いご縁をお持ちです。

■ インクルーシブキャピタリズムとは

「誰も取り残さない経済・社会をどう作るか」——これがフォーブスが掲げるテーマ「インクルーシブキャピタリズム（包摂的資本主義）」。谷本氏はフォーブスジャパン再ローンチの際、世界標準の「億万長者を表紙にする」スタイルから脱却し、若者や多様な人材を積極的に起用したことで読者層が広がり、黒字化を実現した経験を紹介。「トップ層だけでなく、多くの人をインクルーシブしていくことが結果につながる」と述べました。また、EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの歴代世界一を振り返り、近年の受賞者に共通するキーワードとして「ソーシャルアントレプレナー」「多様性」「表現者（アーティスト）としての起業家像」を挙げました。自分の強みや得意とすることで人々を喜ばせることがこれからの起業家の姿であると語りました。

■ ルーツの未来

卓話の核心となったのが「ルーツの未来」というテーマです。眼鏡ブランド「ジンズ」の田中仁社長が、アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの世界大会で「社会貢献を100回問われ、答えられなかった」経験を機に、地元・前橋市での地域活性化に本腰を入れた事例を紹介。「群馬イノベーションアワード」の創設や白井屋ホテルの再生など、継続的な取り組みが地域に根付きつつあることを伝えました。また、セイコーエプソンの小川社長が「最も大切なステークホルダーは諏訪湖」と語り、10億円規模の自然投資を行っていること、イタリアの高級ブランド「ブルネロ・クチネリ」が地域の職人の未来への投資として高価格帯を正当化していることなど、地域愛を北極星に据えた経営が多くのステークホルダーから評価される時代になっていると述べました。

■ 山形への期待

谷本氏は山形について、「世界のVIPに必ず勤める場所」と語り、ナショナルジオグラフィック「2026年に訪れるべき場所25選」への選出にも触れながら、「静けさ・余白・日常」という山形の価値が世界に先んじて認められつつあると指摘。「山形ブランドを点ではなく面として世界に発信するお手伝いをしたい」と力強いメッセージで締めくくられました。リモートという新しい形での卓話でしたが、世界の潮流と地域の未来を結びつける示唆に富んだ内容に、会場は大いに刺激を受けました。谷本氏、誠にありがとうございました。



講師卓話



「年越しそばをおいしく食べるための知識」 鈴木製粉所代表取締役 鈴木文明社長

12月29日の年内最終例会では、一足早く年越しそばをご一緒した後、鈴木製粉所代表取締役の鈴木文明社長をお迎えし、ご卓話をいただきました。鈴木社長は日本蕎麦協会理事・全国蕎麦製粉共同組合副理事長として、山形のそばのみならず日本全国のそば文化の普及にご尽力されています。年間で最も忙しいこの時期にもかかわらず快くご登壇いただき、そばの魅力を存分にお話しいただきました。

■ なぜ年越しそばはそばでなければならないのか

まず「年越しそばの由来」として5つの説をご紹介いただきました。①そばは切れやすいことから年内の厄や災いを断ち切る、②細く長い形状から長寿を祈る、③健康食として体を清めて新年を迎える、④金細工職人が金粉集めにそば団子を使ったことに由来する金運上昇、⑤江戸時代の商人が月末（晦日）にそばを食べる習慣が大晦日に残った——いずれの説においても「そばでなければならない理由」があることを、ユーモアを交えながら解説いただきました。

■ お酒の締めにはそばが最適な理由

年末年始はお酒を召し上がる機会が増えることから、「締めの一杯ならぬ締め一杯のそば」を強くお勧めいただきました。ラーメン・アイスクリーム・お茶漬けなど誘惑の多い締め食について「気持ちだけの癒し」と表現しつつ、そばには①肝臓回復を助けるビタミンB群、②胃粘膜を修復する水溶性タンパク・多糖類、③血管を強化するポリフェノール系のルチン、④低GI値による低糖質効果、⑤香りや温かさによる副交感神経への働きかけ——という5つの効果があると解説。「昔からお酒好きの方は自然と締めにそばを食べていた」という言葉が印象的でした。

■ ラーメン対そば——運んでくる幸せの種類が違う

そば業界への風当たりとして「ラーメンに負けている」という声もある中、鈴木社長は「どちらが優れているという話ではなく、運んでくる幸せの種類が違う」と語りました。ラーメンはドーパミン系の「一気に最高潮に達する幸せ」、そばはセロトニン・オキシトシン系の「じわっとくる幸せ」。映画に例えるならラーメンはアクション大作、そばは「スタンド・バイ・ミー」や「ショーシャンクの空に」のように、公開当初は地味でも長く愛され続ける名作——という独自の表現に会場は大いに沸きました。

■ 研究最前線とそばの本質

現在、アナフィラキシーのない品種開発・収穫量2倍化・もちそばの開発を農研機構と共同研究中であることも紹介いただきました。また、そばの風味変化（「変わり」）のメカニズムを山形大学・慶応大学と研究中のことで、「そのうちノーベル賞を」とユーモアたっぷりに語る場面もありました。おいしいそばをいただきながらの卓話は、年の瀬にふさわしい温かく充実した時間となりました。鈴木社長、誠にありがとうございました。



クリスマス会



12月22日にパレスグランデールで華やかなクリスマス会が開催されました。この特別な夜には、五十嵐会長と武田幹事がエレガントなタキシード姿で参加者を歓迎しました。会場には多くの会員とその家族が集まり、クリスマスの雰囲気を楽しむことができました。親睦家族委員会はサンタクロースの姿で会場をにぎわせました。生バンドによるクリスマスソングの演奏は、会場に素晴らしい音楽を響かせ、参加者を魅了しました。また、バルーンアートのパフォーマンスが行われ、子供たちは色とりどりの風船で作られた作品を見て大喜びし、笑顔が絶えませんでした。このように、会場は活気に満ちあふれ、皆が心温まるひとときを共有しました。クリスマス会は、すべての参加者にとって忘れられない素晴らしい思い出となりました。





山形美術館絵画鑑賞例会

第3071回例会は、山形美術館での「絵画鑑賞例会・大人の遠足」として行われ、美術館ならではの落ち着いた雰囲気の中で開かれた。開会にあたり会長は、長く寄託されてきた吉野石膏コレクションへの感謝とともに、152点まで広がった名品が今年度末で返却されることへの思いを語った。世界的評価を受ける作品群を前に「しばしの間、いい夢を見せてもらった」と振り返り、日常の中にある価値が突然失われる重み、そしてロータリーの活動にも柔軟な姿勢が大切であると述べた。続いて、大澤館長が吉野石膏による東京・千駄木の文化施設建設の進捗を紹介し、来年秋以降に作品が移動可能となる見込みを説明。現在は残る133点から厳選した60点を2階フロア全域に展示していることを伝えた。その後、会員は副館長・岡部氏の案内のもと自由に鑑賞し、それぞれが名画と向き合う豊かな時間を楽しんだ。



クラブ会報アーカイブは
こちらのQRコードからご覧ください



山形西ロータリークラブ事務局

山形市十日町1丁目1-26 歌懸稻荷神社

info-ywest@ywrc.jp